

北海道のフクロウ類

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

日本には12種類のフクロウが記録されていますが、北海道にはそのうちの10種類が確認されています。その中で冬鳥として渡来するコミミズク、シロフクロウを除き他は繁殖しています。

シマフクロウの調査をしていると、その生息地には3-5種のフクロウ類が必ず確認出来、シマフクロウの生息する環境の懐の深さを感じます。

私は運よく10種類すべてを観察することが出来、今回はそのうちのワシミミズク、オオコノハズク、コミミズク、フクロウを紹介しします。

●ワシミミズク



これまで迷鳥とされてきましたが20世紀も終わる頃繁殖が確認され、何

羽かの雛が巣立ちしました。しかし現在は繁殖の確認はされていません。ワシミミズクは小規模な渡りをする事で知られています。北海道にいるワシミミズクはサハリンからの飛来と考えられていますが、逆に海峡を越えることは少ないとも言われており、海外からの渡来がなくなればいずれ消滅するでしょう。体長60cm、体重2.5~3kg、シマフクロウ



ワシミミズク
威嚇する巣立ち後の幼鳥 (枝幸町)
撮影：小西 敢
コミミズク
休息中 (釧路市)
撮影：本藤 泰明
オオコノハズク
雌親 巣の近くで警戒 (根室市)
撮影：外山 雅大
フクロウ
巣立ちした幼鳥を護る (標茶町)
墨絵のフクロウ
寶泉院 (京都市 大原)

に次ぐ大きなフクロウで、ウサギやタヌキまで捕食します。

●コミミズク



シロフクロウと共に広々とした環境を好みます。草の丈のあまり高くない荒

れ地で日中も盛んにハンティングを行なうので、人目につきやすいです。時は草の間に潜り込み休んでいますが、頭かくして尻かくさず。夕暮れ時トラフズクと同じ場所で、ハンティングしているのを見かけることがあります。杭などの構造物によく止まるのはトラフズクです。体長30数cm、トラフズクと同等。

●オオコノハズク



北海道全域に生息しています。また渡りも行うので、その実態はよくわかっていません。繁殖している個体は近年増

加の傾向にあると思われます。道東においては繁殖確認が急増しており、特にシマフクロウ用やフクロウ用の巣箱でも繁殖しているのが確認されています。巨大な巣箱で寒そうに感じますが、大は小を兼ねる、大きさはあまり関係ないようです。フクロウのいない離島に多く生息し、対馬では緑の下でも繁殖しているようです。体長は20数cm。

●フクロウ



エゾフクロウと亜種名で呼ばれることが多く、シマフクロウと並び親しまれ

ています。またアイヌの人もカムイ(神)と付く名前呼び、道に迷えば啼いて道案内をしてくれるとか、ヒグマが獲れるとか、そういう言い伝えもあります。アイヌの人と近い関係にあったことがうかがわれます。体長40数cm。

上の写真は京都大原 寶泉院の引き戸に描かれたフクロウです。古今東西フクロウは人を魅了しています。



事務局便り

本誌面でご紹介のとおり、北海道シマフクロウの会はNPO法人へ移行しました。今後も、これまでの会員を始めとする関係者の皆さまのお力添えがなければ会の活動は成り立ちません。引続きシマフクロウに象徴される北海道の生物多様性保全に資する情報発信や啓蒙活動、生息地で保護活動に当る方々との連携等に注力して参りますので、今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願いたします。

●賛助会員・寄付を募集しています 当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆さまの賛助会員としての参加と、寄付を募集します。ホームページからも手続きが可能となっておりますのでご覧ください。

(ホームページはリニューアル中で、近々完了予定です)

【北海道シマフクロウの会 事務局】(株)北海道二十一世紀総合研究所 内 〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地北洋ビル6階 (担当：米谷・山内) TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683 (URL: hokkaido-shimafukurou.org)

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌

第22号

シマフクロウ親子 左から雌 雄 若鳥
写真：山本純郎



NPO法人「北海道シマフクロウの会」の設立について

特定非営利活動法人「北海道シマフクロウの会」理事長 横内 龍三

2019年3月20日に大通センタービル内のセミナールームにて、NPO法人北海道シマフクロウの会の設立後最初の活動として約40名が参加し講演会が開催されました。本記事では、横内理事長の講演の要旨をお伝えします。



●今年のシマフクロウの状況

講演の始めに根室の山本純郎当会顧問からの情報として、シマフクロウの状況について次のとおり紹介した。

- 根室地方に営巣する番、5組のうち、既に4番が産卵
- 講演会当日までにはもう1番も産卵する見込み
- シマフクロウの動静には、平年と大きな変化はなく、順調に推移
- 雛が孵るのは4月中旬以降

また、生息数の公表値が165羽と増加し喜ばしい反面、写真撮影等が目的の営巣地への侵入者が後を絶たないとのことで、当会としては営巣地には絶対立ち入ってはいけないことを訴えていきたい。

●任意団体の活動を通じて浮かび上がった課題・懸案事項

5年半に亘る任意団体の活動を振り返り、十分な財政基盤の整わない状況で、当会の活動は、シマフクロウの実態に関する広報活動にそれなりの成果をあげてきたと考える。一方で5年間の活動において、次のようないくつかの課題、懸案

が浮かび上がってきたのも事実。

- 活動範囲が、任意団体という性格上会員中心で、広く一般への働きかけが弱かったこと。例えば、会報の配布は会員主体。
- 財政的基盤が弱く、活動に制約が出たこと。2大目的であった、シマフクロウの実態に関する広報、実際にシマフクロウの保護活動をしている個人、法人への財政的支援のうち、後者にはほとんど手がつかなかったこと。
- 会員拡大が思ったようには進まなかったこと。特に、新規会員の獲得策について、工夫と努力が足りなかったことは反省。
- 任意団体のままでは、いただく「寄付」に対して、寄付者へのメリット等の面から、円滑に対応が出来ないこと。

●NPO法人とは何か

こうした課題を克服していくための一つの方策として、任意団体のNPO法人化問題が浮上し、昨年秋からその準備に入り、本年2月、特定非営利活動法人(通称NPO法人)「北海道シマフクロウの会」の認可取得、法人登記が完了した。NPO法人とは様々な社会貢献活動(公益活動)を行い、その構成員に対し、収益を配分することを目的としない、NPO法に基づき設立された(非営利)法人であり、NPO法人化のメリットとして次の点があげられる。

- 社会的信用の増加
- 法人格の取得(団体名での契約、永続的活動が可能)
- 経費の認められる範囲が広い
- 官公署から事業委託、補助金を受けやすい
- 税制面で有利になる(収益事業を行わない限り、申告により無税)

●認定NPO法人制度とは

NPO法人の活動を支援するために、税法上設けられた優遇制度。認定NPO

法人とは、NPO法人のうち、組織運営・事業活動が適正であって、より公益性が高いと思われるものにつき、所轄庁の認定を受けたもの。

認定NPO法人への寄付者の税法上のメリットは、個人～認定NPO法人に対する寄付につき寄付金控除または税額控除が得られる。法人～同じく、特別損金算入限度の範囲内で損金算入が出来る。

なお、認定NPO法人となるには、設立の日から1年を超える期間が経過していることが必要で、当会としては早く到来年度の申請となる。

●今後のNPO法人の事業展開について

NPO法人化後の「北海道シマフクロウの会」の活動について、次の観点をあげた。

- 広報活動を「会員向け」から広く「一般公衆向け」に～機関誌の会員以外への配布/ホームページ、SNSによる情報発信の充実
- 保護活動を行っている団体・個人への財政支援実施 ～認定NPO法人の資格を得て、広く「寄付金」を呼びかけ、当会の財政基盤の強化と共に、財政支援活動の強化を推進。また、寄付金を募る方法として、いわゆる「クラウド・ファンディング」の手法も検討材料。(クラウド・ファンディングを推進する組織を立ち上げた北海道新聞社との連携を模索)
- NPO法人として可能な、シマフクロウ・グッズの販売や写真集等の出版といった収益事業の検討

●一層の支援のお願い

最後に今般のNPO法人化に伴い、シマフクロウの保護活動に対する支援を、広報活動、財政支援活動の強化を通じて、より充実したものとするよう努力していきたい。皆様には、これまで同様積極的なご支援をお願いしたい。併せて賛助会員増強へ向けたお力添えもお願いしたい。



10 円山動物園のシマフクロウ・レイン、初の産卵

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 理事長 横内 龍三



卵



クック



レイン

去る3月25日付の北海道新聞に嬉しい記事が掲載された。円山動物園で飼育されている番のシマフクロウ、クック(雄、2012年来園)とレイン(雌、2014年来園)との間で初の産卵があったという。しかも、卵は2個(1卵目は3月17日、2卵目は3月22日の産卵)とのことだ。円山動物園では、飼育下繁殖に向けた取り組みを2016年から行っているが、2017-18年は、交尾は確認されたものの産卵に至らなかったという。

シマフクロウの繁殖行動は、春まだ早い時期に始まる。順調に抱卵が推移すれば、雛の誕生は4月下旬になる模様だ。雄のクックはしきりに餌をレインに運んでいるようだ。動物園では川魚の生餌を増やして番を応援している。もっともクックとレインへの影響を最小限とするために、動物園としては、有精卵であるかどうか、胚が正常に成長しているかどうかをチェックするための検卵(卵を一時的に採取)をすることを避けているとのことだ。従って、現時点では卵が有精卵か無精卵かは判明していない。

レインは2010年の保護時に左羽が骨折しており、その後遺症から、ケージ内を自由に飛び回ることが出来ない。こうしたハンディを持っているため、このことが繁殖活動のブレーキになることはな

いかとの危惧は、今回の産卵で少しは薄まったといえよう。しかし、雛が実際に誕生するまでは安心できない状態が続く。今回お話を伺った加藤園長、山本飼育展示課長、弓山職員はじめ、関係の皆様のご緊張の日々は続く。もっとも、この記事が掲載される「シマフクロウ通信」が発行されるころには、一応の結果が出ていることであろう。レインが温めている卵が、有精卵であって無事雛が誕生することを、それこそ神仏に祈りたい気持ちで動物園を後にした。

円山動物園では、現在、シマフクロウの番を非公開のバックヤードで飼育している。これまで、ガイドツアーなどの企画をして、できるだけ多くの人に知ってもらえるよう努めてきたのだが、しばらくは飼育下繁殖の計画や施設面での制約等から非公開の状態が続く模様だ。将来、シマフクロウが身近に観覧できる環境が整うことを期待したい。

●追記

誌面編集中に円山動物園より連絡があり、今回は母親のクックが卵を食べてしまい、残念ながら孵らなかったとのこと。ただ、少なくとも卵の1つは有精卵だったとのこと、当会としても、来年こそは関係者のご努力が実を結ぶことを祈念いたしたい。

アークスグループ・サッポロビール 共同企画

アークスグループでサッポロ生ビール黒ラベル「花火缶」を買ってシマフクロウを守ろう!



サッポロ生ビール黒ラベル「花火缶」発売キャンペーンが実施されます。

●対象期間 2019年4月23日～6月30日

アークスグループでサッポロ生ビール黒ラベル「花火缶」を買くと、当会に一本1円の寄付となります。

★アークスグループ(ラルズ、福原、道北アークス、東光ストア、道南ラルズ、道東アークスの北海道215店舗、ユニバーサル、ベルジョイスの北東北115店舗)